

# 北と南の出会い



## 宇宙から見た北海道とその周辺

北海道の南には、本州、四国、九州、沖縄へと島々が続いています。北にはサハリン(樺太)が長くのび、その先にはユーラシア大陸が広がっています。東に千島列島をたどると、その先はカムチャツカ半島です。北海道はこれらをつなぐ位置にあり、

遠い昔から、多くの生き物や人、物が行き交う交差点となってきました。北からはマンモスゾウ、南からはナウマンゾウがやってきました。床に描かれた北海道の上に立ち、周りをながめてみましょう。



## ナウマンゾウ

ナウマンゾウは、約65万年前から数万年前まで東アジアにすんでいたゾウで、北海道には少なくとも12万年前に本州から渡ってきました。1969(昭和44)年に十勝地方の忠類村(現在の幕別町)で発見されたナウマンゾウは、全国から集まった研究者とボランティアによって発掘され、ほぼ1頭分の化石が見つかりました。年を取ったゾウで、オスであると考えられています。ここにある復元全身骨格はこの化石をもとにつくられたもので、ケース内にあるのは化石の実物です。



## マンモスゾウ

マンモスゾウは、約40万年前から約1万年前までヨーロッパやシベリア、北アメリカなどにすんでいたゾウです。シベリアで発見された氷漬けの死体(ミイラ)によって、体が長い毛で覆われていたことや小さな耳を持っていたことなど、寒冷な気候に適した体であったことがわかりました。北海道には、数万年前の特に地球が寒かった時期に、サハリンを通して大陸から渡ってきました。大きく曲がった巨大な牙は、雪を掘って食べ物を探すことにも使っていたと考えられています。

## 北海道はどんなところ？

正面にあるスクリーンでは、北海道の地理的な特徴を映像で紹介しています。北海道は、日本では「北国」と見なされていますが、ロンドンやパリなどのヨーロッパの都市より南にあります。にも関わらず、冬は寒く、雪がたくさん降り、海が流氷で覆われる地域もあります。すんでいる動物は本州よりユーラシア大陸と共通しています。亜寒帯の針葉樹と温帯の広葉樹が同居しています。そして、大昔から「北東アジアの十字路」でした。これらのことを知っていると、総合展示がよりおもしろくなるはずです。

